

くらしにやさしい街 … 志木、よりよい環境を未来に残すために

エコシティ志木通信

6月1日号 (No. 66・ゲリラ豪雨しつこい号)

2012
*
6月

NPO法人エコシティ志木

代表理事 天田 眞

〒353-0006 埼玉県志木市館 1-1-2-108

<http://kappa-no.net/eco-shiki/>



写真：天田 眞

じーじやじや
見ないで...



勝手にレッドデータ of 志木 (52)

アオダイショウ

昔はどこにでも棲んでいて人と共生していた代表的なヘビでしたが、建築様式の変化、緑の減少、道路による分断、主食とするネズミ・小鳥の減少等で、すっかり見かけなくなっていました。今は埼玉県のレッドデータリストでは、全県で準絶滅危惧種に指定されています。木登りが得意で、最大2メートル程（南西諸島を除く本土では最大）の巨体なのでヘビ嫌いの方はびっくりするでしょうが、おとなしく毒もないので、見かけたらそっとしておいて欲しいですね。

(天田 眞)

2011年度の報告と2012年度の予定

代表理事 天田 眞

エコシティ志木 第10回(2012年度)総会は5月20日(日)に開催され、2011年度の事業報告と2012年度の事業計画が承認されました。また、理事が2名退任し、新たに1名加わりました。

●2011年度の活動報告

◆環境、施設の保全・管理及び創出事業

①里山の手入れ：志木市の公園美化活動会制度に基づき、いろは親水公園こもれびのこみち・西原ふれあい第三公園の2か所の斜面林の日常管理(清掃、落葉掃き、下刈、伐採等)を行いました。

②河川敷の清掃：彩の国リバーサポート制度(2012年度から「川の国応援団」に名称変更)に基づき、柳瀬川右岸志木中学校付近及び新河岸川右岸富士下橋付近より下流でごみ拾いを行いました。

③外来植物駆除作戦：柳瀬川富士見橋付近で志木中学校の生徒に呼びかけ、新河岸川いろは橋付近で市民に呼びかけ、アレチウリとオオブタクサの駆除作業を行い、外来植物問題の啓発パンフレットを発行しました。当事業では埼玉県NPO基金の助成金を受けました。

◆調査、研究事業

①柳瀬川・野鳥&川の生きものウォッチング：柳瀬川及び水谷田んぼで野鳥等の調査、柳瀬川で魚類及び水生昆虫等の調査と水質調査を行いました。

②県民参加生き物モニタリング調査：埼玉県的全県的な生物調査に参加し(3年目)、柳瀬川・新河岸川・水谷田んぼ・こもれびのこみち・西原第三公園等で調査を行いました。

③身近な川の一斉調査：「新河岸川水系」と「全国」の調査に参加し、8カ所の河川・湧水等を志木中学校科学部も参加して調査しました。

④埼玉県内一斉ガンカモ調査：(財)埼玉県生態系保護協会志木支部が行った柳瀬川での調査に協力しました。

◆観察会及び学習・教育事業

①こどもとおとなの自然塾：春の野草、夏の魚、秋の鳴く虫、冬の渡り鳥の4回の観察会を開催しましたが、子どもの参加が少なく課題となりました。

た。

②小学校等への講師派遣：柳瀬川の自然学習(3校)、プールのヤゴ救出(2校)、宗岡の水防史(1校)、志木小エコクラブで講師を務め、志木小ビオトープの手入れ作業を行いました。その他、市内外の学校・地域活動団体の魚釣り体験に協力しました。

③ボランティア・NPO活動体験者受け入れ：社協の地域ボランティア体験者を受入れました。

④出前水族館等でイベントへ参加：「いろはふれあい祭り」「志木市民まつり」「つむじ銀杏で街合わせ」「水辺再生合同完成イベント」に参加し、出前水族館やポスター展示、資料配布等を行い、「志木の古今防災ワークショップ」でフィールドワーク案内を行いました。

◆出版、広報事業

①エコシティ志木通信の発行：本紙(280部)とイベントカレンダー(660部)を年4回発行。

②ホームページ管理：エコシティ志木のホームページをリニューアルしました。

③活動紹介展示：催事で展示等を行いました。

◆エコツアー事業(「志木まるごと博物館 河童のつづら」プロジェクトとしての活動)

①ぶらり散歩・見学会：黒目川(朝霞～妙音沢)新河岸川2回(志木～朝霞水門～北赤羽)、関宿城博物館(野田市)の4回行いました。

②惣堰堤と水塚の文化に学ぶ事業：水塚の文化研究会として水防施設やそれらに関わる歴史・知恵を探る学習や情報発信を行いました。

②ホームページ運営：河童のつづらのホームページ運営を行いました。

●2012年度の主な取り組み

上記事業はいずれも継続していきます。NPO法人になって10年経ちましたが、改めて活動を点検し、環境まちづくり団体として行うべき公益的活動のあり方、このところうまくいっていない行政との協働のあり方等を検討していきたいと考えています。

4/22
(日)

春の野草を見てみよう

朝からどんよりとした曇り空で、午後からは雨の天気予報でしたが、なんとか午前中は降られずに観察会が出来ました。

午前9時に柳瀬川サミット前に集まったのは総勢20名（うちこども1名）でした。

昨年までは志木市立教育サポートセンターの後援を頂いて、「こどもとおとなの自然塾 “春の野草を見てみよう”」ということで、こどもを中心に大人の参加もというスタイルを取っていましたが、こどもの参加が少ないことから、大人向けのプログラム（勿論こどもの参加も歓迎です）に変更して、志木市教育委員会生涯学習課の後援を受けて実施することにしました。

今年は寒さのため桜の開花が一週間ほど遅れましたが、野草も同様に開花が遅れており、「スイバ」

などは十分に生育しておらず、雄株と雌株の区別がつきづらい状況でした。加えて曇り空のためにオオイヌノフグリやカタバミ、オランダミミナグサなど多くの野草が蕾のままで、例年なら見られる可憐な花を見ることが出来ませんでした。

観察された野草は58種類（去年は63種類）でした。
（山崎光久）



5/9
(水)

志木小学校・屋上ビオトープ

ビオトープ植生調査（24年春）



志木小のビオトープは平成15年3月の竣工で満9年が経過しました。毎年春と秋の年

2回植生調査を実施していますが、当初から観察された草本の種類は約190種類、樹木は約80種類になります。今から6年前は草本で120種類、樹木で約50種類でした。その間鳥や風によって種子が運ばれ、種類が増えたのと、観察の時期や気候によって新たなものが見つかったりしたため、5割強の増加になっています。もちろん一度の観察だけでその後は見られなくなった植物も多く含まれています。

今回の調査では、草本60種類、樹木46種類が観察されています。（樹木地図を作成したため、草本は簡単な調査でした。）

今年はフェンス周りに植わっていたマルバシャリンバイ、トベラ、カナメモチなどの樹木がすっかり切られ、学級園のフェンス周りもきれいに刈り込まれたため、毎年見られたカルガモの産卵もありませんでした。

また、去年は半年近くも水の循環系等が故障し、乾燥化が進み、特にビオトープ園では、イネ科のメリケンカルカヤの繁茂がひどく、背丈が低い植物の生育が阻害されていました。一方学級園は草刈がされて、日当たりが良いせいか新たにタチイヌノフグリ、アメリカフウロなど多くの種類が見られました。

ビオトープといえどもある程度は手入れをしないと一部の種類が増えすぎて、生物多様性を阻害します。

現在のビオトープの問題点は管理体制をどのようにするかで、エコシティ志木がクラブ活動の合間に少人数で手入れをするのではなく、学校側で体制を整える時期にきていると考えます。

（山崎光久）

3/20
(日)

新河岸川ぶらり散歩

～朝霞水門から北赤羽まで～

参加者 25 名が朝霞駅前に集まり、バスで朝霞水門に行き、天田代表の案内で下流へと歩きました。首都高速 5 号線手前の芝宮 橋までは、荒川と新河岸川の間の大きな土手で、眺めもよく、遠くにはスカイツリーが望め気持ちがいいコースです。

途中、荒川を利用したタンカーの栈橋と新河岸川沿いの朝霞油槽所までの油送管設備がありますが、油槽所等の解体移設が進められており、使われなくなっていました。

首都高速手前の右岸には三園浄水場があり、秋ヶ瀬取水堰から取り込まれた水で、東京都の飲み水の他、工業用水も作られています。

首都高速を過ぎると、荒川との間にも住宅が広がり、堤防はコンクリート壁となり、眺めは一変します。

少し歩いて、荒川の旧河川跡を造成した舟戸公園で、カワセミ、コサギ等を見ながら昼食です。

隣の新日鉄の工場には、今でも君津から船で材料が運ばれています。浮間地区の水塚や浮間公園を見て、カミソリ堤防の脇を歩いて北赤羽に到着です。

今回は、上流とは大きく異なった新河岸川の様子を見る事ができました。

(青木明雄)



5/14
(日)

「北区飛鳥山博物館」 研修



北区飛鳥山博物館の提示の一部 (写真: 青木明雄)

水塚の文化研究会のメンバー 4 名で北区飛鳥山博物館にでかけました。

東池袋から飛鳥山まで都電荒川線を利用。花見客 (?) で超満員でした。

飛鳥山周辺の地形は、山と谷、古墳、街道、溪谷がありダイナミックです。志木と比べると、同じ台地と低地の境でもその深さが 2 倍ほどもあり変化に富んでいます。

目的の北区飛鳥山博物館では、昭和初期の民家と「水塚」の移築展示がありました。

印象的だったのはその展示方法です。

「展示の見方」として、「この展示は、特に高齢の方に昔の暮らしを思い出していくための展示です。展示物にさわって思い出を語ってください」という趣旨の掲示がありました。

このような展示方法は、1960 年代に欧米で始まった「回想法」という考え方に従っているそうです。「思い出を語る」ことが、高齢者の心を安定させ、人生に対する自信や生活の質を高める効果があるらしいです。

博物館の次は、花見客 (桜はほとんど散っていましたが) で賑わう飛鳥山公園、隅田川に注ぐ石神井川 (かつて音無川と呼ばれた) の溪谷・音無親水公園、西ヶ原一里塚、王子神社、王子稲荷神社と巡りました。

(毛利将範)

3/25
(日)

埼玉県「水辺再生 100 プラン合同完成イベント」に参加

埼玉県が平成 20 年度からすすめていた「水辺再生 100 プラン」が完成したことを記念しての合同イベントが、志木市内の水辺再生現場である新河岸川で開催されました。

当会は、出前水族館、事例発表、現地ツアーで協力。「出前水族館」では、柳瀬川から採取してきた魚やカゲロウの幼虫などを展示しました。ヌマチチブの「吸盤貼りつき芸」に子どもたちは喜んでいました。

メイン会場では、事例発表として地元のアイガモ会と当会が活動紹介を行いました。

その後、現地ツアーとして希望者と一緒に宗岡の治水施設を歩きました。江戸時代に築かれた堤防などの「三代の堤防」、「水塚」、明治 32 年に煉瓦で改修された「北見塚樋」などを案内しました。

今回の水辺再生工事で志木市役所下流の新河岸川に船着き場が造られました。この場所に舟下りで有名な長瀬から招いた助っ人の舟は行列ができ



出前水族館を見学する参加者たち（写真：青木明雄）

る大人気でしたが、自前の舟で花見ができるようになればいいなと思いました。

今後、この場所は地元市民たちにより管理・活用されることとなりますが、当会は富士下橋下流右岸の場所に関わっていく予定です。（毛利将範）

わっか祭（生活クラブ生協）＆子どもまつり（志木おやこ劇場）



わっか祭（4/28）の展示の様子

当会の会員である 2 つの団体が、志木ニュータウン中央公園（館近隣公園）でそれぞれ開催した 2 つのイベントに、『柳瀬川出前水族館』で参加しました。いずれの日もよい天気めぐまれ沢山の人が賑わいました。

● 4 月 28 日（土）わっか祭

東上線沿線の生活クラブ生協の支部や関連団体

で構成される東上線沿線地域協議会の主催で開催された『わっか祭』に参加し、水族館の他、当会や関連団体の啓発資料も配布しました。今回初めての開催でしたが、生活クラブの食材を使った食べ物、フリーマーケット、ライブ演奏等を楽しんでいました。

● 5 月 13 日（日）子どもまつり

毎年恒例の志木おやこ劇場主催の『子どもまつり』に参加しました。昨年は当会の総会と重なってしまい参加できず、2 年ぶりです。もう 19 回目ということで、当会はいつから参加してきたかと昔の通信を調べたら、ちょうど 10 年前の 2002 年から参加していました。当時に比べると参加団体が大幅に増えています。通常、出前水族館では当日の朝に魚捕りをするのですが、今回はスタッフが足りず当日では準備が間に合わないのので、前日の夕方に魚捕りを実施、ささやかな出展になりました。（天田 眞）



漆喰塗りの蔵（明治 28（1895）年築）
明治 43（1910）年の大洪水のときの水の跡が側壁のしたから 1.2 メートルの位置に残っていたそうです。作業小屋には避難用の舟がありました。

宗岡の水塚群

NPO 法人エコシティ志木

毛利将範

1 水塚とは

水塚（みづか）とは、「屋敷内の一部を土盛りで一段高くしてその上に建物を建て、米・味噌・寝具など貴重品や生活必需品を保管して洪水に備え、また増水した水が退くまでしばらく避難生活ができるようになっている」いわば個人的な水防施設です。江戸時代の初期頃から築かれはじめたと考えられています。

このような施設はかつては日本全国に見られました。洪水が多かった木曽三川（木曽川・長良川・揖斐川）下流の濃尾平野や利根川中流域の群馬県板倉町周辺、そして荒川流域には特に多く残っています。そのような地域は沖積平野などの低地であることが多く、川が運ぶ肥沃な土のおかげで豊かな水田地帯が形成されている反面、洪水にも悩まされてきた歴史があります。

荒川中下流域に位置し、荒川と新河岸川に挟まれた沖積低地に位置する志木市宗岡地区にも多くの水塚が現存します。

2 宗岡の水塚群

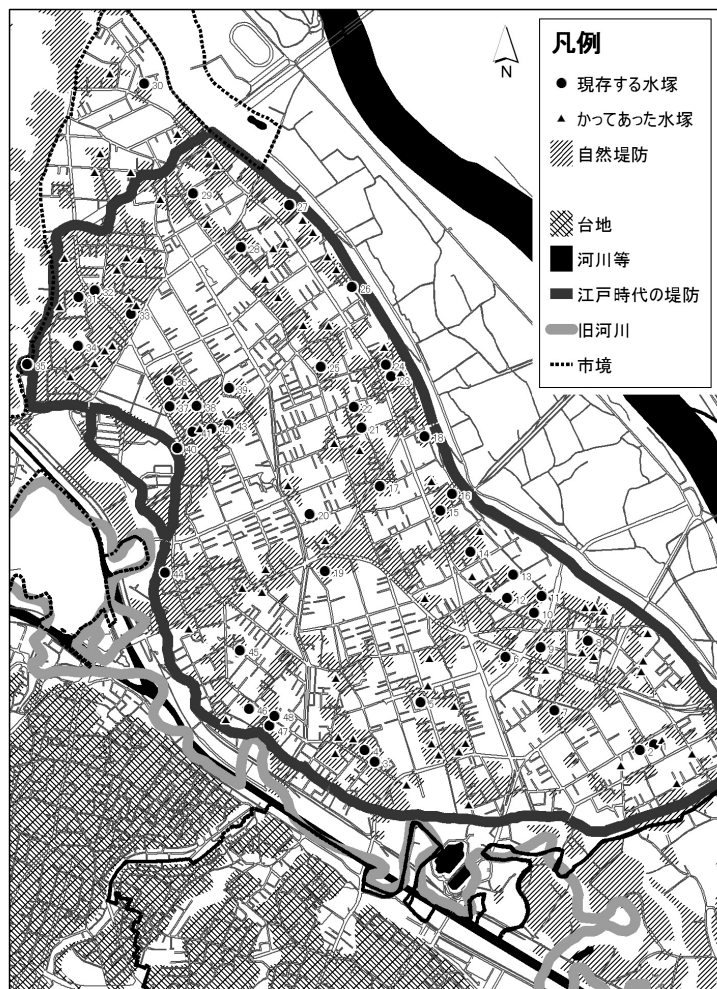
当会では 2009 年から 2 ヶ年かけて宗岡地区の水塚を調べ、『水塚の文化誌』としてまとめました。その結果、4 km² 弱の市街化が進む宗岡地区に 48 基の水塚が現存することを確認しました。都市の中にこれほど多くの水塚が残されている例は

大変珍しく、宗岡の水塚「群」と呼ぶにふさわしいと思います。

●水塚の築造時期と築造割合

『水害と志木』によると、宗岡に現存する水塚 66 基（1986 当時）のうち、江戸期 13 基、明治期 43 基、大正期 8 基、昭和期 1 基、不明 1 基と報告しており、約 85% が江戸・明治期に築造されています。また、佃堤が曲がって築堤されているのは、そのころ存在した水塚をつないで造ったのではないか、という説も紹介しており、佃堤が築かれた 17 世紀中頃にはすでに多数の水塚が存在していたと考えられます。

弘化 3 年（1846）の宗岡全土が水没した洪水時、年貢減免を願い出た請願文書の写しに「宗岡村全戸数 284 軒と寺院堂庵 11 軒の合計 295 軒のうち…」という記述が見えます。また、『水害と志木』では、1986 年調査時に現存する水塚・土盛りだけが残る場所・伝承で水塚があった場所を地図に示し、その合計は 124 基になっています。このうち、前述の築造時期の割合から江戸・明治期に築造されたものを類推すればほぼ 100 基となり、これらのことから江戸から明治期にかけての宗岡地区のほぼ 300 戸のうち少なくとも 3 分の 1 には水塚があったと考えることができます。



水塚の分布と自然堤防の関係図

基図：国土基盤地図、1/2500 より（作図＝小島敏文）

この図によると、ほぼすべての水塚は自然堤防上に建築されていることが分かります。

●水塚の土盛り

水塚は宅地の一部に土盛りし、その上にクラを建てています。

宅地は自然堤防上に位置し、さらに土盛りして水田面より1mほど高く、水塚の土盛りは、さらに宅地面から0.5～1.8mほど高くなっています。

土盛りの配置の多くは、母屋の日当たりを妨げない、また貯蔵庫として日当たりの影響を受けにくい北側となっていました。宗岡の場合はちょうど北西方向が川の上流にあたり、母屋に対する洪水の激流をやわらげる効果が期待できます。また、関東平野特有の強風に対しても土盛りの配置・クラの高さなどに考慮があったそうです。

●水塚のクラ

クラの建坪は、2間×3間（約3.6×5.4m）のものが多く、ほとんどのクラには少し天井の低い2階があり、洪水時に2階で避難生活を送れるようになっていました。

水塚またはそのクラの呼び方は、単に「クラ」「土蔵」「物置」がほとんどでしたが、「文庫倉」「味

噌倉」などと用途によって区別して呼ぶ場合や、少数ですが「水塚」と呼ぶお宅もありました。

周辺の住民はもちろん、水塚のある家の住人であっても若い世代には「水塚」という言葉が通じない場合もありました。水害の心配がほとんど無くなった現在では水塚の存在意義も用途も変化しており、水塚という言葉も次第に死語になりつつあると感じました。

●現存する水塚

今回の調査で確認した水塚は、クラがある水塚48基、土盛りだけが4基でした。

昭和61年（1986）には66基（『水害と志木』）、平成16年（2004）には53基（毛利・安齋）に、そして今回は48基と、次第に減少しています。また、調査後にもすでに2基が解体され、今後消滅していく水塚も少なくないことを実感しました。

3 水塚の今後

「水塚は無用なものとなってしまった」

今回の調査で、何人の方からかこのような言葉をお聞きました。

その一方で、水塚を前にして、「母なる川」からの恵みを最大限得て生活し、「荒ぶる川」から決定的なダメージを受けないために苦勞してきたお話をたくさん語って頂きました。水塚と、そこに収納されている先祖伝来のモノなどには、記憶を呼び起こさせる、あたかも家やまちの歴史を伝える小さな博物館のような印象を受けました。

また、「今でもホテルが出るよ」というお宅もあり、都市化が進む宗岡では、水塚は緑の塊が残る貴重な都会のオアシスでもあることが分かりました。

治水対策が進んだ現代では、たしかに水塚のかつての存在意義は薄れつつあります。しかし、洪水とおりあいをつけながら暮らしてきた郷土の誇りある知恵を伝承するものとして、現代人にとっても宗岡の水塚群の存在意義はますます貴重になってくるものと思われ、その保存と継承が課題です。

参考文献

『水塚の文化誌』志木まると博物館河童のつづら編
NPO法人エコシティ志木 2011
『水害と志木』志木市教育委員会編 志木市 1988

5/19
(土)

野村圭佑環境賞をいただきました

天田代表、青木さん、山口の三人で、江戸川区にある荒川知水資料館「アモアホール」での「野村圭佑環境賞」(野村圭佑環境基金・代表：恵小百合)授与式に行っていました。

授与理由として『水塚の文化誌』の刊行が評価され、表彰状と奨励賞として金一封をいただきました。

野村圭佑環境賞とは、NPO法人荒川クリーンエイド・フォーラムの前理事長で荒川を限りなく愛し、たくさんの著書と写真などを残して2006年に亡くなられた野村圭佑さんの活動・業績を受け継ぎ、後世に継承していくために2007年に創設されたものです。「荒川および下町において、環境に配慮した活動や功績のあった団体や個人を表彰」しています。



受賞を喜ぶ天田代表(中央)と山口副代表(左)[写真:青木明雄]

今回は、当会とNPO法人「荒川の自然を守る会」(『上尾とその周辺の植物』を刊行)の埼玉からの2団体でした。
(山口美智江)

5月3日の荒川だより

*前号まで「農業日記」を連載して頂いていた金子さんより荒川の短信が届きましたので掲載させていただきます。(毛利)

昨日(5/2)からの雨で荒川の水位が上がり排水路と田んぼの水位が同じになり、鯉が排水路より田んぼに入り、田んぼ内を泳いでいます。

我家の田植は、5月3日～4日でやる予定でしたが田んぼの水位が下がるまで延期です。荒川上流に多くの雨が降った場合これから、数時間、荒川の水位が上がりますので、明日(5/4)の荒川の様子を見て決める予定です。

今年の連休前半は、天気もよかったので河川敷



5月3日午後5時ごろの荒川の様子

の田んぼの半数以上が田植が終わっています。田植直後の田んぼは、まだ苗が定着していないので鯉に荒されたり、この雨で苗が浮いたりする可能性があります。田植が終わった農家には、苗がほとんど無いので苗が浮いたりすると、その後の挿し苗も

出来ない為今年の田んぼが、まだらになる可能性もあります。

大体、この時期に大雨が降ること自体初めてで異常な事です。田植前からこれでは、今年の稲作がどうなるか、心配です。

5月3日17時現在の写真を送ります。

(金子秀樹)

《鳥類》

オオタカの食痕 (1) → 3月29日 (日) 柳瀬川右岸・高橋の下 [伊藤智明]

キジの幼鳥 (1) → 3月29日 (日) 柳瀬川・高橋上流の右岸 [毛利将範]

タシギ (20羽程度) → 4月15日 (日) 水谷田んぼ [柳瀬川ウォッチング]

コチドリ of ディスプレイ → 4月15日 (日) 柳瀬川・栄橋上流 [柳瀬川ウォッチング]

コアジサシ (1) → 5月16日 (水) 荒川取水堰の下流側 [青木明雄]



コアジサシ (5/16) [青木明雄]

《魚類》

マルタウグイの産卵 → 4月上旬頃連日 柳瀬川富士見橋付近 [天田眞]

ブルーギル (3匹) → 5月12日 (土) 柳瀬川で捕獲 (3・4・5cm) [天田眞]



ブルーギル (5/12) [天田眞]

《昆虫》

セイヨウミツバチ (100匹以上) → 3月11日 (日) 西原第三公園。雨が上がり晴天になったら、多数の満開のミツマタの木に群がっていた [天田眞]

《その他》

シジミ (1) → 3月25日 (日) 柳瀬川 [青木明雄]

ヒキガエルの卵 → 3月26日 (月) 慶応志木高校近くの自宅の池 [寺田明子]

クロコウガイビル (4匹) → 4月28日 (土) 志木ニュータウンの自宅で、雨でぬれた建物周りに現れる。ナメクジやミミズを食べる [天田眞]



クロコウガイビル (4/28) [天田眞]

シマヘビ (1) → 5月17日 (木) 館第3公園～志木二小の横断歩道で車にはねられて死んでいた (1m位) [天田いづみ]



シマヘビ (5/17) [天田いづみ]

環境 ひとくちメモ (24) 伊藤 智明

「ジオパーク」

ジオパークとは、ジオ（地球）に親しみ、ジオを学ぶ旅、ジオツーリズムを楽しみ考える場所です。山や川をよく見ることにより、数十億年の過去から未来まで、生態系や人間生活との関わりがわかります。

2011年9月現在、日本国内20地域が日本ジオパーク委員会によって認定されています。そのうち、洞爺湖有珠山、糸魚川、島原半島、山陰海岸、室戸の5地域は世界ジオパークに加盟認定されています。

埼玉県内には、秩父ジオパークがあります。秩父地域は、奥秩父山地・上武山地（秩父帯・四万十帯からなる）、外秩父山地（三波川帯からなる）に囲まれ、その中心に丘陵や河岸段丘（新第三系中新統及び第四系）のある低



前原の不整合（秩父盆地新第三系の基底）

い土地「秩父盆地」が広がっています。

また、荒川や赤平川により形成された河岸段丘は、高位・中位・低位に区分されています。秩父地域では、NPO 秩父まると博物館、NPO ちちぶまちづくり工房、NPO 秩父の環境を考える会など、ジオパークに関する活動が盛んに行われています。

（出典）日本ジオパークネットワーク <http://www.geopark.jp/>

☆会員状況

2012 年度更新済み会員 (5/25 現在)

個人正会員 34

団体正会員 1

賛助会員 3

＊以下の方に寄附をいただきました。

ありがとうございます。

宮澤とよ美 様 上田 勲 様 岩上 弘 様

★本会の財政基盤は、会員
の方の年会費が頼りです。

★今年度も継続更新をよろ
しく願います。



■当会の団体正会員

志木おやこ劇場

生活クラブ生協志木支部

■当会の団体賛助会員

慶應義塾志木高等学校

志木柳瀬川ロータリークラブ

■当会が参加している、または主な協力団体

志木おやこ劇場

いろは遊学館利用者の会

志木市コミュニティ協議会

志木市社会福祉協議会

柳瀬川流域ネットワーク

柳瀬川流域水循環再生市民懇談会

新河岸川水系水環境連絡会

新河岸川流域川づくり連絡会

新河岸川広域景観づくり連絡会

彩の国南西部地域 NPO 連絡会

川の国応援団

彩の国みどりのサポーターズクラブ

(財) 埼玉県生態系保護協会志木支部

市内小中学校

志木市立教育サポートセンター

志木のまち案内人の会

グループぽんぽこ

**情報満載！
当会のホームページ**

NPO法人エコシティ志木

<http://kappa-no.net/eco-shiki/>

志木まるごと博物館河童のつづら

<http://kappa-no.net/>

2012年度 役員

代表理事	天田 眞	再任	代表理事
理 事	青木 明雄	新任	
	伊藤 智明	再任	事務局長
	加藤 健二	再任	
	金子 秀樹	再任	
	毛利 将範	再任	副代表理事／広報部会長
	望月 仁	再任	
	山口 美智江	再任	副代表理事／まちづくり部会長
	山崎 光久	再任	水と緑部会長
監 事	宇津木 美恵子	再任	
	松田 勝正	再任	

2012年度 予算 (2012年4月1日～2013年3月31日)

特定非営利事業に係る事業 (今年度の収益事業計画はありません)

●収入

(単位:円)

科 目	予算額	備 考
1 会費等収入	149,800	
個人会費	124,800	
団体会費	10,000	
賛助会費	15,000	
2 事業収入	320,000	
保全・管理・創出	40,000	公園報奨金
調査・研究	130,000	生き物調査等
観察会・学習・教育	50,000	講師謝金、資料代等
出版・広報	0	
エコツアー	100,000	参加費等
提言	0	
3 助成金収入	20,000	
行政	20,000	まちづくり報奨金
その他	0	助成金未定
4 雑収入	20,000	
寄付金等	20,000	
その他	0	
5 収益事業より繰り入れ	0	
当期収入合計	509,800	
前期繰越金	699,205	
収入合計	1,209,005	

●支出

1 事業費	300,220	
保全・管理・創出	55,000	外来種駆除、斜面林管理等
調査・研究	40,000	生き物調査等
観察会・学習・教育	20,000	観察会・総合学習等
出版・広報	50,000	通信、HP、展示等
エコツアー	120,000	水塚研究、ぶらり散歩等
提言	10,000	
保険料	5,220	
2 管理費	179,580	
租税公課	0	
旅費交通費	3,000	エコシティ志木通信を除く
通信運搬費	5,000	
消耗品費	2,000	
給与手当	0	
事務局経費	140,000	事務局分散運営費
印刷費	2,500	エコシティ志木通信を除く
参加団体会費	18,000	5団体分
雑費	4,080	
会議費	5,000	運営会議会場費
3 予備費	30,000	
当期支出合計	509,800	
当期収支差額	0	
次期繰越金	699,205	

植物の葉・芽・枝などに、こぶ状のふくらみができたり、葉が大きく変形したりして、中に虫が棲んでいるものを「虫こぶ」と呼びます。あまり知られていませんが、身近でも以外に多く見つけることができます。

虫こぶは、それを形成させる生物の摂食・吸汁行動や分泌物等による刺激に、寄生された植物が反応し組織が肥大して形成し、形成者をこぶの中にくるんでしまいます。こぶには完全な閉鎖型のものと一部が開いているものがありますが、形成者はこぶの内側を摂食や吸汁して成長します。

虫こぶを形成する虫にはアブラムシやキジラミの仲間、タマバエやタマバチと呼ばれる小さなハエやハチの仲間等があります。

エゴノキの枝先に5～6月頃にできる虫こぶ

はエゴノネコアシと呼ばれ、数個の細長い袋状の虫こぶが房になっています。袋を開くと多数のアブラムシが棲んでいますが、7月頃になると袋の先端に穴が開き、翅のあるアブラムシが脱出します。

サクラの葉の表面が膨らんで赤やピンクに変色しているのはサクラハトサカフシで、2本の葉脈の間が表側に膨らんで袋になりアブラムシが棲んでいます。6月頃になると裏がスリット状に開き有翅虫が脱出します。

5月頃、ケヤキの葉の表面が盛り上がり小さな袋になるのはケヤキハフクロフシで、アブラムシが入っています。夏には穴が空いて有翅虫が脱出します。

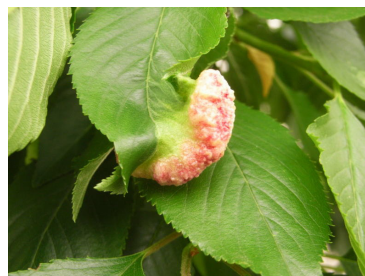
葉が裏側に巻き込み完全な袋を造らないものもネズミモチ等でよく見られます。



エゴノキの枝先に付くエゴノネコアシ
既に先端に穴が空いている



エゴノネコアシを開けたところ。増殖
したアブラムシとその分泌物



2本の葉脈の間が表側にふくらむ
サクラハトサカフシ



サクラハトサカフシを開けたところ
テントウムシの幼虫が侵入していた



ケヤキハフクロフシ
こぶの部分はすでに枯れている



葉が裏側に巻き込んでいるサクラハチ
ヂミフ



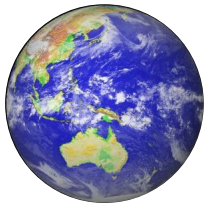
トウネズミモチの新葉が裏側に巻き込
んでいて、周りがべたつくこともある



巻き込んだ葉を開くと、トウネズミモ
チハマキワタムシとその分泌物



ヨモギの葉が裏側に巻き込み赤く変色
するヨモギハベリマキフシ



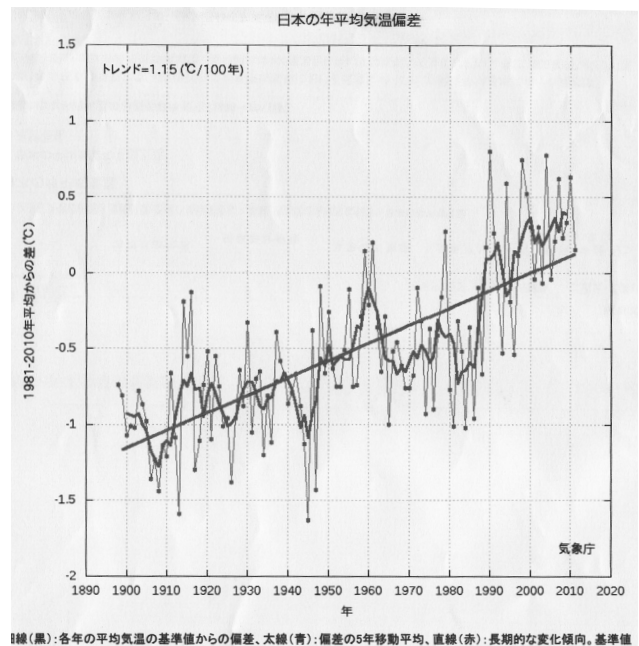
地球と日本の自然 (5) 「地球温暖化」について

加藤 健二

最近いろいろ異常気象が発生しています。寒波や大雪の到来、台風並みの爆弾低気圧、今までに経験したこともない大竜巻など地球温暖化と関係があると言われています。

地球の気候は年々変動しているので温暖化のひとつの原因に絞ることは難しいと言えます。長期にわたって温度データを追い、その変化が可視的で納得しやすい指標は何か？に焦点を当てて考えたいと思います。そのため氷河に着目し、地球は冷えつつあるか、それとも氷河が後退して、地球は暖かくなっているか？という問いに結びつけたく思います。話を遠い過去に戻しますが、地球誕生後の長い激動の期間を経て、地球は安定した期間に入りましたが、長期で寒冷と温暖を繰り返しています。この中で過去数回の氷河期があったとされます。この氷河が現在拡大していれば寒冷化の方向、逆に縮小していれば温暖化の方向と言えます。直近の氷河は1万年前に終わったといわれ、現代は氷河期の間の「間氷期」と言うことでほぼ科学者の意見は一致しているようです。

上記グラフは、気象庁の今年発表のデータですが、ここ100年間の日本の温度変化を示しています。毎年の温度変化は上下動を繰り返しますので単にデータをつなげてもデコボコのノコギリ型のグラフで、変化の方向は良く見えません。そこで長期のデータを移動平均という統計処理を施し中心点をつなげるという処理がされ、これを見ると



右肩上がりの温度上昇を示しており、100年で約1℃の上昇です。100年で1℃ですが、各年個別の変化では数度の温度差が生じ、現実には熱帯夜の回数も格段と増加しています。特に最近の20年は急激な上昇となっています。またこのデータ以前の100年間の上昇は0.5℃であり、過去は現在の温度上昇スピードの半分と言えます。

今回は、大きな枠組みで「氷河」と「100年」のキーワードで地球は温暖化しているか否かについてだけ見てきました。温暖化の入り口の議論のみしか書けませんでしたので、今後は原因や影響について触れていければと思います。なお温暖化の長期データや異常気象については、気象庁のホームページに詳細がありますので、是非参考にご覧いただければ幸いです。

編集後記

◇先月、群馬県板倉町に行ってきました。9月に行う研修ツアーの下見です。板倉町の水場景観は昨年国の「重要文化的景観」に指定され、隣接する渡良瀬遊水池はラムサール条約登録候補地となりました。

◇斜面林の手入れボランティア募集中です。木の剪定や落ち葉掻きなど山仕事に興味ある人、お待ちしております。(ふくろう)

エコシティ志木通信

第66号 2012年6月1日

〈発行〉

NPO法人 エコシティ志木

〒353-0006 埼玉県志木市館 1-1-2-108

電話/FAX 048-471-1338 (天田眞)

URL <http://kappa-no.net/eco-shiki/>

E-mail eco-shiki@ff.e-mansion.com

イベントカレンダー
2012 年
6 月 → 9 月



いろは親水公園「こもれびのこみち」での作業のようす

会員募集中



親子で自然を楽しみたい人
地域の環境を守りたい人
志木まるごと博物館を楽しみたい人 ……

NPO法人エコシティ志木

〒353-0006 埼玉県志木市館 1-1-2-108
電話/FAX 048-471-1338 (天田眞)

【ホームページ】 <http://kappa-no.net/eco-shiki/>
【Eメール】 eco-shiki@ff.e-mansion.com



- 特に記載のない場合、参加費は無料です。
- 予定は変わることがあるので、事前に問いあわせてください。
- 会員には毎月ハガキ等で、別途行事案内をしています。



■ボランティア活動に参加しよう



◆斜面林の手入れ（西原ふれあい第3公園）＜毎月第二土曜日＞

- 【日程】6月9日（土）／7月14日（土）／8月11日（土）／9月8日（土）
 【時間】いずれも9時30分～11時30分（雨天時は中止）
 【集合】9時30分に東上線側入り口の坂を登ったところ
 【内容】西原ふれあい第3公園（旧・西原斜面林）の清掃・下草刈り・急斜面保全等の作業を行います。

◆斜面林の手入れ（いろは親水公園）＜毎月第四日曜日＞

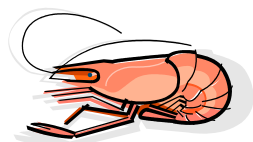
- 【日程】6月24日（日）／7月22日（日）／8月25日（土）／9月23日（日）
 【時間】いずれも9時30分～11時30分（雨天時は中止）
 【集合】9時30分にいろは親水公園「こもれびのこみち」あずま屋（志木市本町2丁目／ルストホフ志木の隣）
 【内容】「こもれびのこみち」斜面林および新河岸川河川敷で、ごみ拾い・下草刈り・シュロの伐採・外来植物の抜き取り等の作業を行います。



◇上記の共通項目

- 【持物】軍手、作業できる服装（長袖・長ズボン・帽子）、あれば剪定用ハサミ・ノコギリ
 【費用】無料
 【主催】NPO 法人エコシティ志木&（財）埼玉県生態系保護協会 志木支部
 【協力】志木市道路公園課 【問合せ】048-471-1338（天田）

■調べてみよう



◆柳瀬川・野鳥&川の生き物ウォッチング＜毎月第三日曜日＞

- 【日程】6月17日（日）／8月19日（日）／9月16日（日）
 【時間】いずれも9時～12時（雨天時は中止）
 【集合】9時に志木中学校前の柳瀬川・土手（志木市柏町3-2-2）
 【内容】※種類がわからなくても参加出来ますのでご心配なく。
 （1）野鳥：柳瀬川に沿って約4km 弱を散策しながら調査します。
 ＜持物＞双眼鏡、あれば野鳥図鑑 等
 （2）川の生き物：柳瀬川で生き物・水質調査やごみ拾いをします。
 ＜持物＞川に入れる格好、あれば手網・魚類図鑑 等
 【費用】200円（会員・中学生以下は無料） ※家族は全員で1名扱い
 【主催】NPO 法人エコシティ志木&（財）埼玉県生態系保護協会 志木支部
 【問合せ】048-471-4275（毛利・夜間）

◆身近な川の一斉水質調査

- 【日時】6月3日（日） 9時～12時30分（小雨決行）
 【集合】9時に志木市役所駐車場（志木市中宗岡1-1-1）
 【内容】市内8ヵ所の水を採取し、志木中学校理科室で水質を測定します。
 新河岸川水系約250ヵ所、全国約6,000ヵ所と連携した調査です。
 【主催】NPO 法人エコシティ志木、新河岸川水系水環境連絡会、全国水環境マップ実行委員会
 【費用】無料 【問合せ】048-471-1338（天田）

◆柳瀬川・大型外来植物駆除作戦 <毎月第三日曜日>

【日程】6月17日(日)／8月19日(日)／9月16日(日)

【時間】16時～18時 (雨天時は中止)

【集合】16時に柳瀬川右岸・東武東上線の鉄橋下

【持物】暑さの対策、軍手、長袖・長ズボン・長靴、あれば鎌、ハサミ 等



◆柳瀬川・大型外来植物駆除作戦

【日程】7月15日(日)

【時間】9時～11時 (雨天時は中止)

【集合】9時に柳瀬川右岸・東武東上線の鉄橋下

【持物】作業ができる服装(長袖・長ズボン)、タオル、飲み物(軍手などはこちらで用意します)

<共通項目>

【内容】特定外来生物アレチウリや要注意外来生物オオブタクサを抜きます。

【費用】無料

【主催】NPO 法人エコシティ志木&(財)埼玉県生態系保護協会志木支部

【問合せ】048-473-4909(山崎)

■自然と文化を楽しもう

◆こどもとおとなの自然塾 「川の生き物をしらべよう」

【日時】7月29日(日) 9時～11時30分 (雨天中止)

【集合】9時に志木中学校前の柳瀬川・河川敷(志木市柏町3-2-2)

【持物】暑いので帽子・水筒、川に入れる運動靴(長靴、サンダルはダメ)

【備考】お魚捕りのアミはお貸しします。

【対象】小学生は志木市在住で定員20名(小学1年生～3年生は親子で参加ください。)

※中学生以上は事前申込みがなくても参加できます。

【申込】小学生はハガキに①児童氏名②学校名・学年③保護者氏名④住所⑤電話番号を記入のうえ、7月17日(火)までに(当日消印有効)志木市立教育サポートセンター(〒353-0001 志木市上宗岡1-5-1 / TEL048-471-2211)へお申込みください。申込み多数の場合は抽選を行います。



◆こどもとおとなの自然塾 「トンボとチョウを見てみよう」

【日時】8月26日(日) 9時～11時30分(雨天中止)

【集合】いろは親水公園『こもれびの小径』のあずま屋(志木市本町2丁目)

【持物】暑いので帽子・水筒、筆記用具、あれば虫とりアミ、ルーペ、昆虫図鑑 等

【申込】不要



◆こどもとおとなの自然塾 <共通項目>

【費用】200円(会員・中学生以下は無料) ※ 家族は全員で1名扱い

【主催】NPO 法人エコシティ志木&(財)埼玉県生態系保護協会 志木支部

【後援】志木市立教育サポートセンター

【問合せ】048-473-4909(山崎)

◆秋の鳴く虫を聞く会

【日時】9月23日(日) 17時～19時 (雨天中止)

【集合】17時に東武東上線・柳瀬川駅前サミット前の「円形広場」

【持物】長袖・長ズボン、あれば虫除け、昆虫図鑑 等

【申込】不要

【費用】200円(会員・中学生以下は無料) ※ 家族は全員で1名扱い

【主催】NPO 法人エコシティ志木&(財)埼玉県生態系保護協会 志木支部

【後援】志木市教育委員会生涯学習課

【問合せ】048-473-4909(山崎)



会員募集中!! (詳細は裏面をご覧ください。)

活動記録 (2月～5月)

◆2月◆

23日(木) コミュニティ協議会地域活性化委員会
26日(日) 水塚の文化研究会
28日(火) エコシティ志木通信印刷・発行作業

◆3月◆

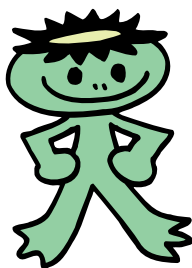
17日(土) 新河岸川水系水環境連絡会水質報告会
18日(日) 柳瀬川野鳥・川の生き物ウォッチング
18日(日) エコシティ志木理事会
20日(火) 新河岸川ぶらり散歩 朝霞水門～北赤羽
25日(日) 水辺再生100プラン合同完成イベント参加

◆4月◆

1日(日) 志木市コミュニティ協議会フリーマーケット
7日(土) 西原ふれあい第三公園月例作業
14日(土) 新河岸川水系水環境連絡会総会
18日(水) 志木ロータリークラブこもれびのこみち作業
20日(金) コミュニティ協議会地域活性化委員会
21日(土) エコシティ志木会計監査
22日(日) 春の野草を見てみよう
22日(日) いろは遊学館利用者の会役員会
22日(日) エコシティ志木理事会
28日(土) 生活クラブ生協わか祭に参加
29日(日) こもれびのこみち斜面林月例作業
29日(日) エコシティ志木総会議案書印刷発送作業

◆5月◆

9日(水) 西原ふれあい第三公園物置設置作業
9日(水) 志木小学校屋上ビオトープ調査
9日(水) エコシティ志木広報部会
11日(金) 志木市コミュニティ協議会理事会
12日(土) 西原ふれあい第三公園月例作業
13日(日) 志木おやこ劇場子どもまつりに参加
13日(日) 板倉町下見
14日(月) 志木小エコクラブ第1回
19日(土) 野村圭佑環境賞授与式
20日(日) 柳瀬川野鳥・川の生き物ウォッチング
20日(日) エコシティ志木第10回総会
21日(月) 彩の国南西部地域NPO連絡会全体会
21日(月) 志木小エコクラブ
24日(木) 志木市コミュニティ協議会総会



NPO法人エコシティ志木



エコシティ志木に入会すると

☆仲間といっしょに環境まちづくりを実践できます
各部会や行事に自由に参加できます

☆次のものを受け取れます

- ①「エコシティ志木通信」 年4回
- ② 行事案内〈ハガキまたはe-mailで〉 毎月
- ③ 当会の発行物 無料または会員割引で

水と緑部会

まちづくり部会

広報部会

■正会員 年会費＝個人会員 2,400円※
団体会員 5,000円

■賛助会員(個人・団体)
会費＝年額 1口 5,000円

★入会方法

氏名、住所、電話番号を明記し、郵便振替等で年会費を納入してください。

〈振替番号〉00510-4-13225 〈加入者名〉エコシティ志木

※ 同一家族の2人め以降は1,200円、同一家族の高校生以下無料。
年会費の有効期間は、4月～翌年3月末です。
10月以降に新入会の年会費は上記の半額です。

埼玉県NPO基金「団体希望制度」 寄付募集中

★寄付方法

1. エコシティ志木を指定して寄付できます
2. 環境など、活動分野を指定して寄付できます
3. NPOを広く支援するための寄付ができます

★寄付金の税法上の優遇措置

1. 個人 所得税・個人住民税が一定額控除されます
2. 法人 寄付金全額を損金に算入できます

詳しくは → **048-830-2839** (埼玉県NPO活動推進課)
<http://www.saitamaken-npo.net/>